



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



調印を終えた協定者

七宗町上麻生地区森林整備推進協定を締結

〈民有林と国有林の一層の連携を!〉

主な項目	○ 中部森林管理局長交代	P 2
	○ 各地からのたより	P 6
	○ 寄稿「遠山森林鉄道と青春の思い出」	P 8
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P 9
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P 10

中部森林管理局長交代

局長
桂川 裕樹

桂川局長着任あいさつ

四月一日に中部森林管理局長を拝命しました桂川です。七年前の平成二十年四月から二年間、森林整備部長として公私ともに充実した日々を過ごさせていただきました。その中部局で再び、皆さんとともに働くことができることは、まことにうれしく、また誇りを感じているところでもあります。

さて、七年前の着任時の「中部の森林」を読み返してみますと、当時の私は「民有林・国有林共通の林政の重要課題について、我々の事業実行を通じていかに貢献していくか」、そして「民有林行政が補助金等を手段とするのに対して、国有林は日々の業務を通じて課題の実現に寄与することができず」と、国有林のあり方について書いています。

現在もこの考えは変わっておりません。むしろ国有林野事業が一般会計化されたことで、ますます、こうした方向性は重要になってきたものと思います。

日本の森林・林業には様々な課題があ

ります。もちろん各都道府県にも、各市町村にも、それぞれの課題があります。

一方、我々国有林の職員は、国有林野の管理経営、すなわち森林整備、木材生産や販売、治山、林道、森林の総合利用や環境教育など多様な事業の実行を通じて培った技術、能力、知見があります。これらは国有林ならではの長所です。

この長所を存分に発揮し、政策課題の解決の先駆けとして、役割を果たしていくことが求められているのです。

それぞれの持ち場で、それぞれの地域の、あるいはそれぞれの分野の課題が何であるのかを把握し、その解決のためにどのような形で貢献ができるのか、自らの業務について考えていただきたいのです。必ずしも新たな取組という形である必要はありません。直接的ではなく間接的な寄与ということもあるでしょう。今の自分の仕事が地域の森林・林業の課題の解決にどのように役立つのか・役立っているのか、という視点を持つことから始めていただければ、と思います。そして、そうした個々の取組が、やがては日本全体の森林・林業の課題解決につながっていくものと信じています。

国自らが直轄で事業を実行し森林の管理経営を行っている国有林が、国民から広く認められ評価されるためには、その事業実行を通じた政策課題の解決への貢献は不可欠です。

私も改めて皆さんとともに考え、とも

に取り組んでいくつもりです。

真剣に、しかし深刻にはならないように、明るく、楽しく、前向きに取り組みましょう。

◆桂川局長の略歴

生年月日 昭和34年8月20日

本 籍 岐阜県

略 歴 京都大学農学部林学科卒

(昭57・3)

昭57・4 林野庁林政部林政課に採用後、林野庁業務課、熊本局大根占署・企画調整室、宮崎県北方町、林野庁業務第二課・経営企画課を経て大阪局三次営林署長

平3・8 タイ王国王室林野局

林野庁経営企画課企画官

林野庁経営企画課課長補佐

林野庁管理課課長補佐

(経営改善第一担当)

林野庁木材課課長補佐(総括)

林野庁管理課監査官(業務課併任)

中部局森林整備部長

林野庁国有林野部業務課企画官(林野・土地管理処分担当)

環境省自然環境局国立公園課長

林野庁森林整備部計画課長

中部森林管理局長

林野庁森林整備部計画課長

中部森林管理局長

中部森林管理局長

新任幹部あいさつ

次 長
(名古屋事務所長)
河野 充

この度、四月一日付けで次長・名古屋事務所長を拝命いたしました河野です。

私の国有林現場勤務のスタートは、当時の長野営林局、王滝営林署の担当区主任からでした。昭和五十九年九月には長野県西部地震災害を経験し、その後、林野庁、四国局、熊本県、関東局などで勤務し、今回、北海道局から赴任しました。

約三十年ぶりに、豊かで多様な自然に恵まれ、歴史と伝統が根付いている中部森林管理局で勤務させていただくことを大変光栄に思っています。

関東局在勤中には、あの東日本大震災を経験しました。特に、福島第一原発事故による広範囲な放射能汚染災害にに対し、職員・家族の安全確保はもとより、広大な国有林野を管理経営する立場から、まず地域住民の方々のために何をすべきか、林業事業体の雇用と生活を守るために災害後の各種事業をどのように維持すべきか、試行錯誤の連続でした。

その震災時には、道路事情の悪い中、中部局からいち早く、輸送用トラックや

ガソリン携行缶その他救援物資を前橋に送っていただきました。同じ国有林の組織として、局同士が気持ちを一つに対応できたことを、とてもありがたく感じました。

昨年度、中部局管内では、豪雨災や御嶽山の噴火、地震など、自然災害が相次ぎましたが、局・署一体となって、地域のために迅速に、かつ的確に対処したと聞いています。このような対応は、中部局の組織文化として引き継いでいくべき大切なことだと思います。

さて本年度は、国有林野事業が一般会計化して三年目を迎えます。これからは、一般会計となったことの成果が問われることとなります。

この二年間で、県や市町村の民有林行政との連携が大きく進んだことと思います。また、内向きではなく外向きの視線で業務を考えることで、地域ニーズへの意識も高まったことと思います。

県や市町村と共有できた地域林政の課題の中から、国有林としてできることを一つ一つ具体化し、成果につなげていく。そのようなプロセスの中で、中部森林管理局の存在感が一層高まればと思います。地域の方々から、国有林があつて良かったなあと心から感じていただけるよう取り組んでいきたいと考えています。

皆様よろしくお願いいたします。

◆河野次長の略歴

生年月日 昭和34年11月26日
本 籍 宮崎県
略 歴 九州大学農学部林学科卒
(昭57・3)

昭57・4

林野庁林政部林政課に採用後、林野庁林政部企画課、長野局経営部計画課・王滝営林署・長野局経営部計画課、農林水産技術会議事務局、林野庁指導部基盤整備課を経て

平3・8

高知局本山営林署長

〳5・8

林野庁管理部職員課企画官

〳7・4

林野庁業務部業務第一課企画官

〳11・4

林野庁指導部基盤整備課長補佐(企画班担当)

〳13・4

熊本県林務水産部森林整備課長

〳16・4

林野庁林政部林政課調査官

〳19・7

林野庁森林整備部計画課施工企画調整室長

〳20・7

関東局森林整備部長

〳23・5

林野庁国有林野部業務課国有林野管理室長

〳25・4

北海道局森林整備部長

〳26・4

北海道局総務企画部長

〳27・4

中部森林管理局次長(名古屋事務所長)



計画保全部長
江坂 文寿

この度、四月一日付けで計画保全部長を拝命しました江坂です。

愛知県で生まれ育ったのですが、大学を卒業し林野庁に就職して以降、実家から遠方で勤務することばかりでした。中部森林管理局管内での勤務は初めてではありませんが、豊かな自然環境や、歴史・伝統ある文化に恵まれたこの地で働くことができることは、誠に光栄であり、大きな楽しみでもあります。

さて、私は、今まで治山・防災関係の業務を多く経験させていただきました。

災害発生直後の業務としては、平成二十五年の死者行方不明者三十九人に及んだ伊豆大島の土砂災害の発生時に、政府の現地対策室に缶詰めとなって、行方不明者の捜索、住民避難体制の確保などを警察、消防、自衛隊、自治体等との間で調整してしました。また、災害復旧段階の業務としては、平成二十年の岩手・宮城内陸地震(死者行方不明者二十三人)に起因した我が国最大級の地すべり(幅八〇〇メートル、長さ一、三〇〇メートル)などの復旧治山工事を実施しました。三千箇所以上の崩壊地が発生したと言われ、新たに民有林直轄治山事業も開始されています。そして、私自身が被災者の一人となつ

た平成二十三年の東日本大震災です。津波被害のない宮城県の内陸部にいましたが、震度7の激震に襲われ、家屋倒壊、道路寸断、ライフライン途絶などの中、津波に被災した同僚職員の捜索、被災山地の確認調査、救援物資の搬送などを行いました。

中部局管内においても、昨年、南木曾の土石流災害、御嶽山の噴火災害など大きな災害が発生していますが、それぞれ災害直後から機敏で的確な対応が中部局一体となって行われていると思っています。大規模災害への対応振りは、国民の大きな関心事になります。このように優れた対応が中部局の良き伝統として継続されていくよう、その下支えに努めたいと考えています。

また、長野市内から見える山々を眺めていて、長らく休んでいた低山ハイクの再開を思い立っています。その前提として、木曾ヒノキをはじめとした中部局管内の森林整備の推進や、すばらしい山岳景観の維持・保全などの重要性を改めて強く認識しています。

これから、多くの現場を見せていただき、また様々なことを教えていただきながら、職員の皆さん、行政や事業者の方々とともに、森林の公益的機能の維持・向上、林業の成長産業化という林政の重要課題に取り組んでいきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

◆江坂計画保全部長の略歴

生年月日 昭和38年12月15日

本 籍 愛知県

略 歴 名古屋大学農学部林学科卒

(昭和62・3)

昭和62・4 長野庁指導部治山課に採用

後、大阪局、茨城県、長野庁指導部研究普及課等を経て

平8・8 熊本局八代営林署長

〳11・4 農林漁業金融公庫融資第二

部調査役

〳13・1 長野庁森林整備部治山課課

長補佐(施設計画班担当)

〳14・8 東北局森林整備第一部治山

課長

〳18・4 東北局計画部計画課長

〳19・9 長野庁森林整備部計画課課

長補佐(設計基準班担当)

〳20・9 東北局宮城山地災害復旧対

策室長

〳23・5 内閣府(防災担当)企画官

〳26・1 長野庁森林整備部治山課水

源地治山対策室長

〳27・4 中部森林管理局計画保全部長

お別れに当たって

前局長 奥田辰幸

このたびの異動で、国立研究開発法人森林総合研究所森林整備センターに出席することとなりました。皆様方には大変

お世話になりました。

振り返れば、昨年は七月の南木曾町の土石流災害、八月の飛騨地方の豪雨災害、九月の御嶽山の噴火災害、十一月の長野県神城断層地震と災害対応に追われた一年でした。皆様方の献身的な取組により、迅速にかつ適切に被災地域に寄り添った対応ができたことを誇りに思っています。

国有林野事業が一般会計化されてその成果が求められる中で、国有林の地域における存在感を高めるために、公益重視の管理経営の一層の推進、森林・林業の再生等に取り組んできました。特に、森林・林業の再生を現実のものとするために、木材の安定供給と効率的な施業の推進に努めました。

資源は充実し、基盤整備も進みつつあり、木材業界は国産材を求め、若者の森林・林業への関心は高まり、森林の重要性に対する国民の認識も深まっています。森林・林業を取り巻く環境は大きく改善されました。

意欲的に攻めの林政を展開し、国有林が管内の森林・林業の再生を牽引することにより山村地域が活性化し、森林との関わりの中で新たな雇用を創出し、林業が地方創生の切り札の一つとなることを期待しています。

国有林は現場が命です。「霞が関は現場のために、現場は国民のために」を心情に今日まで仕事をしてきました。私の

お世話に

なりました

大好きな国有林の現場での仕事をここ中部森林管理局で行うことが出来たこと、そしてそれを支えてくださった職員の皆様はじめ関係者の方々に心より感謝申し上げお別れにあたってのお礼の言葉といえます。

前次長(名古屋事務所長) 山元康則

三月三十一日をもって退職致しました。平成二十五年四月から退職までの二年間、豊かな自然とところ豊かな方々にめぐまれて過ごすことができましたこと、心から感謝申し上げます。

中部局赴任の時が一般会計初年度ということで、仕事の進め方、スムーズな業務運営・組織運営等々心配しながらの出發でしたが、職員の皆様の熱意と努力により、大きな問題も無く乗り越えることができました。また、名古屋事務所長ということもあり、愛知県や岐阜県などへの出張の機会も多く、長野から長距離の運転をしていただくなど、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

この二年間は、木材の利用拡大に向けて、木製看板や仮設現場事務所の木造化について名古屋林業土木協会と取り組んだり、駅舎への木材利用について鉄道関係者へ説明に回ったり、林業・木材産業関係者と建築士合同の現場視察会を実施

したり、名古屋市内の自治体や大学関係へ森林・林業への理解を深めて頂くため訪問したりと、局署及び名古屋事務所の存在意義を高めることを基本に取り組んできました。思うような成果が出せないままとなりましたが、森林管理局・署と地域社会の連携が一層進むよう取り組んで頂きたいと思います。また、なんとしても、御嶽山の噴火災害は忘れられないものとなりました。今後、行方不明者の捜索や災害復旧等の仕事も再開されると思いますが、業務遂行に当たっては十分留意して頂きながら、木曾地域の支援活動を継続して頂きたいと思います。一日も早い復興をご祈念申し上げます。

振り返ってみますと、昭和四十八年春、東京営林局の採用通知とバック一つを持ち、熊本から寝台特急「みずほ」で東京駅に着き、上野駅から常磐線乗り継ぎ高萩営林署へ向かった日から四十二年が過ぎていました。この間、各局・庁に勤務し、引越しは十七回、移動距離は約一二、四〇〇キロとなりました。いろいろな場所、暴飲暴食・無理難題にもめげず、ここまでやってこられたのは、多くの方々に支えられたおかげと心から感謝しております。

最後になりましたが、中部局が益々輝きますように、また、皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げまして、お別れの挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

前計画保全部長 角 秀敏

この度の異動で、国立研究開発法人森林総合研究所森林保険センターへ出向することになりました。平成二十五年九月から一年七ヶ月の間、皆様には大変お世話になりました。

中部森林管理局での取り組みを振り返ってみますと、温帯性針葉樹林の保存・復元に関する検討会や管理委員会そして報告書の取りまとめ、森林レクリエーション事業について二年間にわたる会計検査、南木曾土石流災害・飛騨高山豪雨災害・御嶽山噴火・長野県神城地震と相次いだ自然災害、長野県西部地震復興三十年のシンポジウム、ニホンジカ被害対策と南アルプス仙丈ヶ岳の事務次官視察への随行、そして森林計画の地元説明会と森林計画検討会、等々局署関係者のご協力の下で、いろいろと経験させていただきました。

以前、中部森林管理局の計画課長として二年五ヶ月勤務していましたので、それなりの土地勘もあり、また、旧知の方も結構いらつしたたので、割とスムーズに業務に取り組めたような気がします。もちろん、そうでない場合も多々あったと思いますが、いずれにしましても、さすが中部森林管理局といった取り組みが随所に見られましたし、経験させていただいたと思います。

こんど行く森林保険センターは、林野庁で行っていた森林保険が森林総合研究

所に移管されるのに伴い、四月に新たに立ち上がる組織です。民有林行政に携わるのは久しぶりになりますが、中部森林管理局での体験を糧として、気持ちを新たに取り組みたいと思います。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、お別れの挨拶とさせていただきます。
ありがとうございました。

平成二十六年 森林・林業社会貢献活動に対する 局長感謝状贈呈式

【総務課】平成二十七年三月十九日、中部森林管理局局長室において、「平成二十六年度森林・林業社会貢献活動に対する局長感謝状」の贈呈式が行われました。

この感謝状は、地域の森林整備や防災活動にボランティアとして貢献した企



感謝状贈呈式の様子



局長感謝状を贈呈された皆さん

業、団体等に対して送られるもので、防災協力活動部門、森林づくり活動部門及び地域連携活動部門の三部門からなり、局長感謝状と森林管理局長等感謝状があります。

平成二十六年度は、企業四十、団体三十三の計七十三の応募があり、厳正な審査を行った結果、四十三の企業・団体に感謝状を贈呈することとなりました。

このうち、特に顕著な功績があった十五の企業・団体に対して、局長感謝状が送られました。

中部森林管理局としては、これからも企業等のボランティア活動を応援し、国民の森林づくりを推進するとともに、地域振興に寄与できると考えています。

水質バイオマス発電順調に稼働！ 第六回協議会開催される

「名古屋事務所」岐阜木質バイオマス協議会（伊藤勇会長）は、三月六日、第六回岐阜木質バイオマス協議会を瑞穂市において、(株)岐阜バイオマスパワー、(株)バイオマスエナジー東海、岐阜県森林組合連合会、岐阜県素材流通協同組合などの会員のほか、中部森林管理局、岐阜県、瑞穂市の出席の下、開催されました。議事では、発電事業の状況、燃料調達状況などの報告を受け、意見交換を行いました。



第六回協議会の様子

冒頭、伊藤会長から「稼働して三ヶ月が経過し、大きなトラブルもなく順調に稼働している。また、燃料の供給についても、関係者の皆様にご協力をいただい



供給された原木と発電ボイラー

ている。」と挨拶がありました。

事務局からも「十二月から本格稼働し、二月の初期点検で一週間休んだ以外はトラブルもなく順調に稼働しており、燃焼も安定し、燃料も安定供給されています。」

ただ、未利用材の使用量が、当初計画より下回っていることや予想以上に灰の量が多いなど」の報告がありました。

会員からは「未利用材を優先使用してゆくべき」「A～C材までの流通が基本にあり、木質バイオマスへは未利用材に限定した供給を指導している」などの意見も出され、国有林からは、分収育林関係、二十七年年度の岐阜県内の素材販売予定量、立木のシステム販売などについて情報提供を行いました。

最後に、今後も情報提供等も含め、この協議会を定期的に開催することを確認して協議会を終了しました。

平成二十七年以降、各地で木質バイオマス事業計画があることから、今後も情

報交換等を密に行い、一層アンテナを高くしていくことが必要と考えています。

名古屋事務所展示室もコースに！

熱田「りんウォーキング」開催

「名古屋事務所」三月二十二日「熱田ぐりりんウォーキング」が熱田区役所、熱田区まちづくり協議会、堀川にぎわいづくり専門委員会の主催で行われました。

このイベントは、熱田区の歴史・文化遺産を巡りながら熱田の魅力を発見しようという毎年恒例のウォーキングイベントです。

十四回目となる今回は、世界デザイン博二十五周年記念「堀川の歴史と松尾芭蕉をたどる」をテーマに、今も残る白鳥会場の名残や江戸時代初期の白鳥御材木場の歴史にふれるとともに、松尾芭蕉の句碑を巡りました。

名古屋事務所では熱田区役所との連携を深める中で、今回のイベントに協力するため、事務所併設の展示室を特別開放してウォーキングコースに組み入れてもらいました。

名古屋では前日に桜の開花宣言も出た中、当日は小春日和の陽気に誘われ百八十名の区民が参加し、展示室を訪れました。展示室では職員が名古屋城築城の際、堀川開削とともに設置された御材木役所から貯木場そして現在の周辺の様子についての職員の説明に、四百年の変遷を感じ聞き入っていました。また、



貯木場の歴史映像に見入る参加者

昭和初期の頃の白鳥貯木場の映像では、ウォーキングで歩いてきた道が鉄道の引き込み線だったことに驚きつつ、貨車から水中貯木場に材木が落とされる場面ではどよめきや感嘆の声が上がりました。

ウォーキングは、ガイド付の十数名のグループとフリーで訪れる人などが順次来場し、一箇所あたり十分間の滞在制限が設けられていましたが、制限時間をオーバーする見学者により一時は混雑する状況もありましたが、次のコースへ向け出発する際には「近くにこんな場所があるなんて知らなかった」「今度ゆっくり見たい」「都会での便利さを求めてばかりで山（森林）へは行かなくなったなあ」といった感慨・反省の声も聞かれました。

参加者は、最終地点の宮の渡し公園で協賛企業の「きよめ餅総本家」が振る舞うぜんざいに舌鼓を打ち二時間の歴史散策を終えました。

各地からのたより

なお、今回のイベント参加にあたり（元）熱田営林署職員の谷口満慶さんはじめ国有林退職者の方々、地域のボランティア団体、（一社）名古屋林業土木協会からも多大なご協力をいただきました。この紙面をお借りしお礼申し上げます。

「御柱の心をつなぐ森」

（木の文化を支える森）の協定を締結

〔南信署〕三月二十日、諏訪大社上社本宮参集殿において、「御柱の心をつなぐ森」（木の文化を支える森）における森林整備活動に関する協定締結記念式典が開催されました。

長野県上伊那郡辰野町に所在する横川国有林一〇五七は林小班一四・三六を



仮見立ての本宮一候補木

「御柱の心をつなぐ森」として設定しました。来年の御柱祭では、当箇所から御柱用材を調達する予定です。



協定締結後握手を交わす代表者

協定の相手方は、諏訪大社上社の大総代経験者や大総代、山作りなど御柱祭関係者からなる民間の森林整備団体「自然と地域と人を結ぶ協議会」です。協議会は今後、モミの植栽やシカ食害防止対策等の森林整備活動に取り組むとしています。

当日は諏訪大社北島宮司も出席され、協議会の五味会長と当署の田中署長が協定書に署名を行いました。その後の挨拶では、五味会長が、本来の御柱用材調達地である社有林御小屋山の用材が足りない現状にふれ、「御柱の伐採で山を荒らさず、次回も当箇所から御柱の調達を行いたい」と述べられました。田中署長から「当箇所から末永く御柱用材が供給できることを願い、地域一体となって山づくりを行ってほしい」と地元との取組に期待する発言がありました。

式典には、地元マスコミも多数訪れ、森に係る地域伝統文化を支援するために国有林を活用する「木の文化を支える森づくり」の取組をPRすることができました。

現地は急傾斜地で足場が悪いため、御柱用材の伐採や搬出が容易ではないと予想されています。山の保全に努めるとともに、安全を最優先に御柱用材の調達を行いたいと考えています。

七宗町で森林整備協定を締結 民有林と連携した森林整備

〔岐阜署〕三月二十四日、七宗町役場において、「七宗町上麻生地区森林整備推進協定締結式」が開催されました。締結式では、岐阜森林管理署長、七宗町長、七宗町上麻生財産区管理者七宗町長、岐阜県可茂農林事務所長、独立行政法人森林研究所森林農地整備センター岐阜水源林整備事務所長、公益社団法人岐阜県森林公社理事長、可茂森林組合代表理事組合長の六名（七機関）により協定書への署名がなされました。

本協定は、平成二十二年九月に岐阜県と中部森林管理局において締結した、森林の持つ多面的な機能の持続的発揮及び木材の安定供給等を目的とした「岐阜県における健全で豊かな森林づくりの推進に関する覚書」に基づき、七宗町で森林共同施業団地を設定し協定締結の運びとなったものです。



協定書調印の様子

本協定の目的は、民有林と国有林が連携し間伐等の森林整備や作業路網の整備に取り組み、林業の生産性向上や林業事業体の育成・強化、木材の安定供給等の着実な推進を図り、森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させるとともに、上麻生地区における林業・木材産業の活性化に資することを目的としています。この森林共同施業団地は、民有林二、〇〇四畝、国有林九一四畝で計二、九一八畝で国有林は三二％となります。

協定期間は、平成二十七年年度から平成三十三年度までの七年間としています。森林整備実施計画の期間は、当面飛騨川森林計画区の残期間となる平成二十七年年度から二十八年度の二年間を計画し、搬出間伐七八畝を計画しています。

路網整備は、森林作業道を七、二〇〇

畝を計画し、民有林と国有林が連携して効率的な路網整備を推進することとしています。なお、三から七年目の実施計画については、協定者間で引き続き検討することとしています。

署名後の会見で、森川岐阜森林管理署長は「本協定は人工林が利用期を迎えつつある中で、県内に複数の大型加工施設等が整備され高まる需要にこたえていくことから意味深いものと考えている。」、井戸七宗町長は「上麻生地区の森林整備が推進できることになり大変喜んでい

る。」、鈴木可茂森林組合長は「上麻生地区は急峻な地形で民有林からは路網整備ができなかったが、今後は、国有林から路網開設ができることで、民有林の森林整備が加速できるものと考えており大変ありがたい。」と挨拶されました。

「おんぼい節」の伝承に尽力

保存会会長が特別表彰受賞

〔東濃署〕「おんぼい節」をご存じでしょうか。東濃署が所在する中津川市付知町を象徴する郷土芸能で、木曾ヒノキを伐り出し川の流れを利用して運び出す「川狩り」の際の「おんぼいえー、おんぼいえー」という掛け声にちなんでいいます。

私ども森林管理署の仕事とも縁の深い



おんばい節の様子

このおんばい節の伝承に尽力されてきた付知町おんばい節保存会の早川太鶴会長が、このほど、中津川市合併十周年記念特別表彰を受けられました。

早川会長は、中津川市の合併と同じ十年前に同会を立ち上げ、以来、百二十名の会員を率いて、愛・地球博（平成十七年）、東京日本橋架橋百周年（同二十三年）、伊勢神宮神嘗祭（例年）をはじめ各地でおんばい節を披露し、その保存・発展に貢献してこられました。「表彰は大変光栄で、多くの方々に支えていただいた賜です。これからも頑張ります。」

との言葉どおり、この四～五月には大改修を終えた姫路城の記念行事、その後も来年の信州諏訪御柱祭に出演が決まっているなどスケジュールはぎっしりとのこと。今後の益々のご活躍をお祈りします。



表彰を受けた早川会長

ところで、お気づきの方もいらっしゃると思いますが、早川会長は実は付知宮林署（当時）の元職員。四十年以上に亘って看板娘として奉職されました。ご退職後に自動車運転免許を取得し、おんばい節と日本舞踊の指導に奔走しておられ、「タヅルさん」と言えば付知町内では知らぬ者がいないほど。お元氣にご活躍の様子をご紹介いたしました。

寄稿

かつて木曾ヒノキや天然広葉樹を運材し、地域住民に愛され続けてきた森林鉄道に関する思い出や楽しい出来事などをOBの皆様から、ご寄稿いただきました。国有林の歴史を示す貴重な財産としてここに掲載させていただきます。

「遠山森林鉄道と青春の思い出」

元中部局 岡村 孝氏、鷹野正美氏

元関東局 片田満廣氏

〈代表筆〉 元東信署 舟山 毅氏

遠山森林鉄道の思い出は飯田宮林署に採用された私達にとって忘れえぬ原風景として、昭和四十三年十二月の「さよなら最終列車」まで人生において貴重な体験をした懐かしき思い出であり、若き日への郷愁にかられるものである。

遠山森林鉄道は起点である梨本貯木場から分岐点の北又渡を経由して、本谷製品事業所及び北又製品事業所までの総延長三〇・五キロメートルにわたる軌道が敷設され、南アルプスの麓を分け入り遠山川の溪谷を縫うように走る林鉄は、春のレンゲツツジや山桜、夏の南アルプス遠望、秋の紅葉等四季折々の景色は一幅の絵になるものでした。

入山時の梨本貯木場は二週間の勤務形態での山泊生活を送る二製品事業所、造林班、土木保線班等百名近い職員が集まり、食糧や酒等の運び入れる様の喧騒は活気あるものであり、客車に乗って戦いの場にいくような臨場感にあふれていました。

私の所属していた北又沢製品事業所は大沢岳の麓を事業地として、山越え索道一段、その先集材線二～三段の多段集材材の大変な奥地で、生産される材は亜高山のサワラ・モミ・ツガ・トウヒ等の大径

材の貴重な天然林資源の生産が行われていました。

運材は毎日一往復で十二両をけん引しての運搬が行われて、両事業所は不思議と生産の過渡期が重なり台車の取り合いとなり、その確保が大事な職務でした。また、大雨や台風シーズンでは線路の決壊等で不通となることも多かった林鉄は、二〇キロメートルを歩いて下ったこともあり、枕木の間隔に合わせた歩きは疲れるものでした。



「さよなら最終列車」を見送る人たち（片田満廣氏撮影）

まだ、若い者にとって、二週間に一度の下山は人恋しさが募りましたが、先輩に連れて行ってもらった夜の投網によるイワナ漁や地蜂取り、山菜取り等楽しい思い出もあります。



世界遺産合掌造 越中五箇山

砺波森林事務所は、富山県西部の富山県南砺市井波に所在し、石川県白山市と

森林官 長屋 和幸

〔富山署 砺波森林事務所〕



立方^{トイ} 年、当時の帝室林野局木曾支局の飯田出張所が着工。総事業費は五億六二四三万円、国有林からの木材輸送総量は三十万

様々な体験をした森林鉄道は今、地元の有志の方による「夢をつなごう遠山森林鉄道の会」が復元に取り組んでいた。だいたいすることに深甚なる謝意を申し上げたいと思います。

〔参考〕信濃毎日新聞記事から

遠山森林鉄道は一九四〇（昭和十五）



大笠山（標高1822m）

岐阜県飛騨市に接する森林約八、五〇〇畝と官行造林約五六〇畝を管理しています。

南砺市には、世界遺産として登録された合掌集落の越中五箇山があります。

石川県白山市と接する庄川西部の国有林は、ブナ・ミズナラなどの広葉樹を主体とした天然林が多く、標高一、五〇〇以上では、低木を主体とした亜高山帯となっています。

庄川支流境川の源流部にある桂国有林は、白山国立公園北端にあたる標高一、八〇〇級の峰々を含む山岳地帯です。

この一帯は、白山ユネスコパークにも登録されており、日本三百名山に選定されている大笠山へは、庄川下流の桂湖からの登山道と、ブナ才峠からの登山道が整備されており、年間約千人の登山者が訪れています。接続する西赤尾国有林は、野生動植物の保護保全を図るために緑の回廊「白山山系」として指定されて

います。

岐阜県飛騨市と接する水無国有林は、標高約一、〇〇〇から一、六〇〇^{トイ}の森林で国有林全域が白木水無県立自然公園に指定されています。林分構成は、約六〇％がスギを主体とした人工林になっていますが、水無山の西方はブナを主体とした天然林となっています。沢沿いは、ミズバショウやリュウキンカ等の湿性植物の群生地となっており、周辺のブナ天然林を含めて「水無湿性植物群落保護林」に指定されています。

近年、水無湿性植物群落保護林では、湿原の乾燥化により湿原植物などが減少しています。このため、NPO法人「利賀飛翔の会」と共に毎年六月に観察会、十月には湿原の保全整備を実施し、止水工の修理や植生の整理などを行い湿原植物等の保護復元に取り組んでいます。



水無湿原に咲くリュウキンカ

また、昨年度、自動撮影カメラを設置したところ、イノシシ、ニホンジカが確認されたことから、今年度は、被害調査を計画しています。

今後とも地域やNPO法人と連絡連携し、湿原、植物の保護復元に取り組んでいきたいと思っています。



水無湿原の保全整備

行事・会議等の予定

◎愛知県植樹祭

5月16日 稲沢市

◎森林管理署次長等会議

5月21日～22日 中部局

◎とやま森の祭典

5月22日 入善町

◎長野県植樹祭

5月30日 大町市



「もっくる新城」の正面入口

◆道の駅「もっくる新城」

江戸時代から桜で有名な桜淵がある新城市は、城下町を中心とした県内で二番目に広い自治体です。古くは豊川の水運と信州方面への伊那街道を結ぶ中継地として栄え、「山の湊」とも称された交通の要所でした。

その新城市で三月二十一日、新東名高速道路の新城 I C（インターチェンジ）



と国道一五一号新城バイパスとの結節点に、道の駅「もっくる新城」がオープンしました。

市内各所で建設工事が行われてきた新東名高速道路は、浜松いなさ J C T（ジャンクション）～豊田東 J C T 間の開通が一年延期され、平成二十七年年度末になつてしまいましたが、開通すれば新城 I C は奥三河地域の玄関口となることから、「奥三河観光ハブステーション」に位置付けられており、地域の魅力を発信するとともに、人が集い交流する地域の拠点として期待されています。

・名称の意味

「もっくる」とは、木材・来るの意味です。温もりを感じる木材をふんだんに使用、地域の産物を余すことなく活用し、人々集まる（来る）活気あふれる道の駅をイメージしています。

・施設概要

奥三河産のスギやヒノキを活用したアーチ形の屋根の建物で、中に入ると木の柱や格子状にデザインされた天井が印象的です。

長篠・設楽原の戦いの「馬防柵」をイメージしたとされる男性用トイレは、木組みの壁で外からの明かりを活かした造りで、女性用は奥三河地域の観光資源が紹介されているそうです。

建物の奥を抜けると野外ステージが設けられており、新城市四谷の千枚田をイメージして作られた棚田ベンチに腰掛け



駐車場の足湯

て、イベント等を楽しめるようになっていきます。

また、駐車場の近くには観光案内所や「足湯」が設けられており、名湯「湯谷温泉」のお湯を楽しむことができます。



千枚田をイメージした棚田ベンチとステージ

・売店等

入口付近は定番のスナック屋台、内部では「お惣菜バイキング」や、猪肉を使った「ししラーメン」などのジビエ料理も楽しめます。また、東三河の特産品が数多く揃えられ、間伐材を利用した「丸太コンロ」や薪まで販売されています。

近くにお越しの際には是非ご覧になっては如何でしょうか。



店内の様子

アクセス方法

「自家用車」東名高速道路「豊川 I C」から国道一五一号線を北へ約三〇分

構造 木造二階建て
延べ面積 一、〇七三・六九平方メートル
営業時間 九時～一八時
駐車場 普通車七五台 大型二三台
身障者用二台